

2004. 3
第35号

- ・全国セミナー・東京支部発表報告
- ・中高年に多い肺の病気について
- ・科学史から見たエントロピー

明日、そして今日の日のために

IFUW会長 青木 怜子

二〇〇四年が明け、春の息づかいを感じる季節になりました。早いもので、今年の八月にはいよいよIFUWの総会が、オーストラリアのパースで開かれます。横浜大会から数えて、九年もの月日が経とうとは、とても信じられないと思う方も多いでしょう。そして、またIFUW会長としての三年にわたる私の任期も明けようとしています。

この三年間は、正直にいうと、IFUWにとっても多難な歳月でありました。会費と寄付に依って立つ経済的な問題もあります。加えて、会員減少の課題、若い会員層の伸び悩みは、JAUW他、多くの加盟各国にとっても共通した悩みにほかなりません。さらには、オタワ総会直後に世界を震撼とさせたニューヨークでのテロ多発事件に続き、絶えずテロと戦争の不安に脅かされた歳月は、世界平和を求めてきたIFUWにとり、ともすれば求心力すら失いそうになった三年間でもありました。

実際、IFUWの会員に年一回のメッセージを送る度に、戦と暴力に屈することなくその根を絶つために

は、たとえ今、無力と見えても、結局は教育の推進しか未来に開かれる道はないのだと、何度、IFUWのミッションを訴えてきたことでしょ。しかし、この当たり前のことが、実は最も大切なことだと考える風潮が、今、社会にやつと強まってきている気がします。それだけに事態が深刻になってきていることだとも痛感させられます。

ICTなど、情報・コミュニケーションの普及や最新技術が社会に著しい変化をもたらしている現在、貧困、飢餓、犯罪、差別、エイズの蔓延など、社会の危機増幅の元を絶てないでいる無力な世の中を、最新技術や高度な知性がどのようにして救えるのか、今ほど、社会の英知とモラルが問われている時はありません。

高等教育の普及とその社会的還元を根拠に、ジェンダーの平等を社会通念の中心に据えることに腐心するIFUWもまた、そのことを問われています。そのために、IFUWは、会自身が抱える経済的困窮の打開や会員増加を目指し、現代的な社会のニーズに応えられる体制の建て直しを図り、パースの会議でその変革への道を探りたいと思います。

皆様も是非、大会にご参加ください。

事業報告・予定

7・9 講演会「中高年に多い肺の病気について」
講師・木田厚瑞氏

10・11 JAUW全国セミナーに参加
東京支部発表「ICTと子育て支援情報」
見学会 江戸東京博物館

10・12 講演会「自然現象の中の秩序と無秩序について」
科学史から見たエントロピー
(科学研究奨励委員会、お茶の水女子大学と共催)

1・10 JAUW臨時総会に出席
新春のつどい(本部主催)
国内奨学金贈呈式(本部と共催)

2・9 講演会「女性のウェルネスを求めて」
「グローバルな視点に立って」
講師・江尻美穂子氏
(国際奨学金委員会と共催)

3・1 国際奨学金委員会と共催
「ともしび」第35号発行

4・3 JAUW第47回通常総会
(京都)に出席
東京支部総会

4・17 記念講演「女性記者走る」
男性型メディアの限界に挑んで
講師・竹信三恵子氏

以後の事業は追ってお知らせします。

二〇〇三年全国セミナー報告

(03・10・11・12)

支部長 三浦 由紀子



秋色のた
だよい始め
た武蔵嵐山
ヌエックに
集った会員
は、一五二
名、一般七
名、来賓二
名とパネリ
スト四名を
お迎えし、

テーマ「ICTは女性の未来をいかに拓くか」のもと、今年度の全国セミナーが開催された。

一日目午前の研究発表数は計十四。九支部、四委員会と「女性と社会システムを考える会」が参加し、テーマ別に三会場に分かれて、同時進行の形で行われた。(1) ICTと女性の職域拡大、(2) ICTと情報リテラシー、(3) ICTと教育。全てパワーポイントを使用、内容も視覚的効果も高い発表が発表された。溢れる程の会場もあったが、混乱もなく、静かに進行できたのは企画段階からの綿密な準備と関係委員会の皆様の協

力の賜であった。後の反省会での「発表の全てを開きたかった」という感想に、JAUW会員の向上心の高さを垣間見た思いがした。

午後のパネルディスカッションは今井けい会長の司会で、ICT関連企業、教育の現場、女性企業家のそれぞれの立場から、ICTに関しての興味深い報告を受け、活発な議論の展開があった。休憩後、青木IFUW会長のお話「IFUWとICTについて」。続いて、新しい試みとしての「PCC体験コーナー」「情報交換コーナー」が開設された。

懇親会では、全国の支部の出席者が紹介され、会員同志の連帯、絆を確認しあった夕べとなった。

二日目は分科会、分科会報告、全体討議と続き、活発で前向きな二日間がしめくられた。

東京支部もチームを発足し、約十カ月、取り組んだ成果を(2)の会場で発表。「ICT」のテーマ上、「子育て支援情報」の調査研究に限られたが、背後にある大きく複雑な問題へと目を向けさせられた。また会場準備のための前日から三日間、一丸となって協力したエネルギーの灯を次の委員会活動に繋げたいと心から願っている。

全国セミナー
東京支部発表を終えて

今年度の全国セミナーにおいては、「ICTと子育て支援情報」情報はどこまで届いているのか」のテーマで研究発表をした。一昨年の十二月から準備を始めた。昨今は少子高齢化社会の問題点が盛んに議論され、その中で少子化を食い止めるための制度、施策、支援策などが様々に整備され始め、女性の生き方をも絡めた家族、出産、子育てのあり方が大きく変化してきている。子育て支援の重要性や問題点を今年度の全体テーマであるICTと関連させてどのような調査研究にまとめあげるかについて様々な模索を続け、「子育て支援情報」という観点から現状と問題点をあぶりだすことにした。

調査研究の内容については報告書に譲るとして、調査研究をする中で副次的に見えてきたことを二・三挙



げたいと思う。まず、今回の研究調査で、ICT機器を駆使してインターネットから情報を収集する際に感じたことは、有り余るほど情報は存在しても玉石混交で、本当に必要で価値ある情報は意外と少なく、しかも到達に時間がかかるということである。特に子育て中など時間制約があり、緊急を要する場合などでは、現状はまだまだ改革が必要である。情報収集のための技術の向上や情報というものに対する基礎知識などの習得も課題である。情報を収集する方法、手段を様々な持ち、情報を吟味する眼力をつけることは言うまでもない。対面で得る直接情報とICTやマスメディアなどからの間接情報の使い分けも必要である。

また、子育てに関する情報に関しては、妊娠・出産して初めて必要となるが、出産まで周囲に乳幼児がいない期間が長い女性が大抵の現代では、予備知識も触れ合い体験もほとんどないまま子育てに突入することになる。予備教育の充実が重要だと痛感した。

最後に、今回の調査研究では、我々メンバーのICT機器の操作技術、情報収集技術、発表技術の向上も大きな成果であった。(遠藤 理枝)

東京支部調査研究
グループ別報告

(1) アンケートグループ

東京支部の全国セミナー発表に、前任者の海外への転居により、途中からでしたがアンケート係として参加いたしました。

大学では卒論のない学科でしたので、一つのテーマに沿って、計画から結論までを仕上げることの楽しさを学ばせていただきました。

アンケートは、東京支部の会員の皆様にも御協力をいただいたのが、回収率が今ひとつでしたのが、残念でした。子育て真最中のビッコ口の方には、随分協力していただきました。

自由記入の欄を見ますと子育てが大変だという人もいますが、自分にとっても成長になるなどプラスにとらえているお母さんも多く、心強く思えました。ただ、緊急時の支援体制がまだまだ十分に整っているとは言えないことも提示されています。保育園、幼稚園に行くまでの母親の孤独も問題です。

地域の中で育児と、仕事をうまく両立できる社会になれば、また育

児の大変さを夫がもっと理解し、相談相手になれば、仕事を持ちながら子育てをし易くなるでしょうし、もう一人産んで育てようかと思えるようになるかも知れないと思います。

ほんの少しだけでしたが、私たちの頃とは違う子育ての様子を垣間見ることが出来て、私にとってもよかったですと思います。

(森川 淳子)

(2) 座談会グループ

座談会は、情報を受ける側の実像を、お母さんたちの生の声を聞くことによって実感としてとらえようと企画した。

ご協力いただいたのは、清瀬市のNPO法人子育てネットワーク・ピッコロ。保育利用会員と保育提供会員で成り立ち、二四時間対応の保育サービスや子育てひろばの開催など民間版ファミリースポットといつていい活動を行っている。

八月に入った土曜日の午後、清瀬駅前の男女共同参画センターに十人のお母さんたちに集まっていた。子どもたちは隣の保育室でピッコロの保育提供会員の方にみてもら

仕事、保育、家庭さらに主要テーマである情報について話が進められた。子どもを育てながら仕事を続けることは厳しく、妊娠・出産までは皆仕事をしていたが現在はやめている人が多い。職場や家庭の無理解、頭で分かっているが行動が伴わない夫、自身にも「いい母親」というしびれがある、などの本音が語られた。「でもやっぱりかわいい、産んでよかった」という一言に皆が頷くのを見てはほっとした気持ちになる。情報については身近な人たちから得ることが多く、ICTの活用はまだ少ない。時間的余裕がないというのが現実のようだ。

会を終えて、私たちには何よりも爽やかさが残った。それは自分の考えをしっかりと、素直にそれを表現する若いお母さん達の姿だった。

(福士 仁三代)

(3) ホームページ検索グループ

プロジェクトチーム全員が、自治体のホームページを使い、検索だけでどこまで子育て情報を得られるかとスタートを切ったのは春も終わりの頃であった。各自二、三の自治体を担当、試行錯誤を繰り返して、ようやく形がまとまった時には、夏も終

わっていた。それからセミナーまで慣れないパソコンの前にかじりついていた人も多かったようだ。

結局、集計表(1)では、公私立の保育所、保育室、保育ママ、緊急一時保育、病後児保育、ファミリースポットセンターの検索の数値的具体的結果を、集計表(2)では、実際に子育て情報を欲する母親(①産休明けにフルタイムで働きたい、②子供が病気になる、③子育てでストレス、④子育てが不安)になったつもりで真剣に検索し、ホームページからの回答を得た。その結果、M市のように、単独の子育てホームページがあり、母親が安心して子育てできる自治体、評価は低いが古くからの子育て施設の充実があるのではと思われる自治体、ウオーターフロントとして人口急増に対応し、積極的な取り組みのある自治体など、さまざまな結果が得られた。

転入者が、子育て情報で、充実した地域に居住を選ぶ時代、自治体の早急な対応が望まれる。私達がパソコン検索をした春から秋の間でも、改善された例がいくつか見られ、急速に変化しつつあるものと今後に期待したい。

(佐々木 澄子)

講演 (03・7・9)

中高年に多い
肺の病気について

講師 木田 厚瑞氏



暑い日差しの午後、呼吸器の専門医として、NHKテレビ「今日の健康」のために「ガッテン」などの解説もなさっておられる木田厚瑞氏に、肺の病気の原因や症状についてのお話を伺いました。

中高年に肺の病気が多いのは、肺が外界に直接開放している唯一の内臓で、台所の換気扇と同じように有害物質が沈着するのに加え、さらに加齢により肺のハリが無くなって来ることなどが原因のようです。

中高年に多い肺の病気は山ほどある中、一番多いのは「肺ガン」で、医師が音を上げる程急増しているそうです。肺ガンの原因の九十五%は喫煙で、タバコを吸い過ぎることが危険なのではなく、吸うこと自体が

危険とのことでした。

他に「気管支喘息」「肺炎」「肺線維症」「間質性肺炎」「気管支拡張症」などがあります。

また、年間二百七十四万人が死亡している「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」と呼ばれている大変怖い病気があります。典型的には、何故か太り過ぎと痩せ過ぎの両極端で、慢性の咳と痰が長く続き、労作時の息切れや、胃潰瘍が治りにくいのが特徴です。初期の症状が、ありふれたものであり本人も気付かないくらいゆっくりと進行していくため、重症になるまで受診しないことが大きな問題です。この病気の主な原因も、やはり喫煙だそうです。残念ながら、完全には治せない病気ですが異常があれば早目に検査を受け、正しい治療をすることが大切です。

肺の病気の治療はまず禁煙です。しかし、本人が吸っていないくても受動喫煙をしている場合があります。受動喫煙は、吸っている本人以上に害があるため、社会全体での予防が大切とのことでした。自分自身のためだけでなく、周りの人のため、社会のためにも禁煙は大切なのだと、改めて実感いたしました。

(細田 照子)

講演 (03・12・13)

自然現象の中での秩序と無秩序について：科学史から見たエントロピー……

講師 八木 江里氏



第三回目の科学研究奨励委員会委員による講演会が初冬としてはうらかな十二月十三日の午後、お茶の水女子大学理学部の会議室で、東洋大学名誉教授の八木先生を講師としておこなわれました。八木先生は物理学史の研究では自他共に認める第一人者でいらつしやいます。ムーミン物語の中のスナフキンさんを彷彿させる緑のコート、黒のパンツスーツにピンクの花模様のインナー、赤い大きなイヤリングと物理学という難解な分野を専門としていらつしやるとは信じ難い素敵なお姿にみとれつつ、物理学のむずかしい概念と格闘した一時でした。

エントロピーは複雑な現代社会の

経済学的側面を理解するためにも大

切な概念の一つになっていると八木先生は講演のレジメの冒頭にかかれておられます。エントロピーの概念は一八六五年にクラウジウスにより

提案され、その増加量は増加した熱量を絶対温度で割ったものとして定義されています。その後、個々の分子のエネルギー状態（ミクロな状態）と分子全体としての状態（マクロな状態）とを結び付ける理論が出来上がりました。数学に弱い参加者もいることを考慮されての「脇においておく」数式で大風呂敷が一杯になるようなお話でしたが、そのミクロな状態の数を八木先生は七個のコップに七個のアメ玉を入れる場合の数により演示説明なさいました。それでもエントロピーは理解しにくいものですが、講演後の「食器棚の中を長い間片づけないでくと、もつとも乱雑な状態になる。これがエントロピーの増加ということですね」という参加者からのコメントに、ああそういうことかと納得された方も多かったのではないかと思います。入院手術され退院後間もないお体で素晴らしい講演をしてくださった八木先生に感謝するとともに、今後のご健勝をお祈り致します。(岩村 道子)

講演 ('04・2・9)

女性のウェルネスを求めて
ーグローバルな視点に立ってー

講師 江尻 美穂子氏



津田塾大学名誉教授の江尻美穂子氏に「ウェルネス」という考え方に
ついてのお話を伺いました。

氏は大学で長年、学生たちの健康
保健教育に携わってこられました。
保健という言葉からはただ単に病氣
ではないというイメージがありま
す。しかし、健康とは、肉体的に良
好な状態であるだけでなく、精神
的なものも含めてトータルに見る必
要があるのではないかと、これがウエ
ルネスという発想であり、深く考え
させられるお話でした。

私たちは元気で長生きしたいと思
っています。では、健康とはただ単
に長生きすることなのでしょうか。
ウェルネスという考え方をすると、
そこには自然を含めた私たちを

とりまく環境が大きく関わってきます。

私たちはみな一人ひとり、個人差
があつて生まれてきます。障害をも
つて生まれてくる人もいます。人に
はそれぞれの健康な状態、つまりウ
ェルネスがある、ということですね。

また、この世の中で生きていくと
いうことは、社会的、経済的、そし
て自然も含めて周りの環境に大きく
影響をうけます。このような外的な
条件は、時代や国によって大きな違
いがあります。つまりウェルネスは
決まった形があるのではなく、ダイ
ナミックな、いわば動的な考え方だ
す。自然を含めた社会的環境の中で、
個人が持つている条件を生かして自
分の到達し得る最高の状態、それが
ウェルネスです。

ウェルネスという概念は比較的新
しく、一九六〇年代にアメリカで使
われ始めたそうです。この考え方は、
健康を単に肉体的なものとしてでは
なく、自然を含めた社会的な環境と
の関連で捉えますから、自然的・社
会的環境をよくしようとするものが
よりよいウェルネスを得ることにつ
ながります。漫然とではなく、社会
との関連の中で意識して生きること
の大切さを痛感しました。

(早瀬 暢子)

見学会 ('03・10・29)

江戸東京博物館

前日の雨がうそのように、さわや
かな秋晴れとなりました。JR両国
駅に午前十時半に集合し、徒歩約五
分、江戸東京博物館に向かいました。

江戸東京博物館は、失われつつあ
る江戸東京の歴史遺産を守り、また
歴史と文化をふり返ることによつ
て、未来の東京を考える博物館とし
て平成五年にオープンしました。

常設展示室には実物史料や複製史
料のほか、復元された大型模型など
が展示されています。

ボランティアガイドの方の説明を
聞きながら江戸日本橋を渡り、江戸
ゾーンへ。江戸図屏風が当時の江戸
城や町並みをしのばせます。棟割長
屋の生活は、火災の多かった江戸な
らではの知恵と工夫から、部屋は一
間。すぐ運び出せるように持ち物も
極少ないといった、合理的な生活様
式だったそうです。商業の面に目を
向けると、現在の三越の前身にあた
る越後屋のようすや、隅田川周辺の
にぎわいなどがええます。

東京ゾーンには、文明開花や産業
革命、震災と戦災をくぐりぬけて大
都市へと成長した東京と、その当時

の生活や文化、娯楽などが見られま
す。鹿鳴館の舞踏会の模様が十五分
間隔で見られ、しばし華やかな世界
へ。また庶民の住宅の複製には、私
たちが幼い頃に見聞きしたものも少
なくなく、「昔、こんなのあったわね
え」などと語りあいながら、思い出
話を花をさかせました。

約一時間半の見学のあと、七階のレ
ストランで和風懐石料理のお昼をいた
だき、楽しいひとときをすごしました。

解散後はそれぞれ、周辺の回向院
や吉良邸、旧安田庭園などに足を運
ばれた方も多数いらしたようで、楽
しい一日を過ごすことができました。
年に数回、特色ある展示がある
そうなので、また訪れたいと思いま
した。

(渡辺 加代)



バスツアー (03・11・4)

(財務委員会)

晩秋の秩父路

十一月四日、前日の雨も上がり絶好の行楽日和。参加者七三名を乗せたバスは一路秩父路に向かった。

最初の見学先「ちちぶ銘仙館」は丈夫な絹織物として親しまれてきた「知々夫絹」の資料館。秩父銘仙は、縦糸を張ったところで染色するので裏表が無く、武士から庶民まで日常の用に重宝された。売店には、衣類の他、スカーフ、袋物、敷物など多様な製品が並べられている。

昼食は「秩父ふるさと館」の二階で、蒟蒻の唐揚げ、茗荷の甘酢、具沢山の鯉鮓など、昔ながらの食文化を受け継ぎ、季節の食材を活かした素朴な味を楽しんだ。

そのふるさと館の一階は、平成十四年にオープンしたばかりの「相田みつをギャラリー」。心に響く言葉と書で、広く親しまれている作品が、昭和初期に建てられた銘仙問屋、柿原商店の本館と三棟の土蔵に展示されている。一時の出発までの間に、各自、自由に觀賞。

午後は、奥秩父を代表する神社である「三峰神社」に参拝する。ガイド



さんから、一時間半はかかる山道なので、必ずトイレを済ませておくようにと注意があった。秩父山

地は、深い谷と山腹の森林美が相まって美しい渓谷をつくり、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている。三峰観光道路が開通して便利になったとは言え、山腹に沿って造られた道はヘアピンカーブの連続。四五人乗りの大型バスは、対向車に細心の注意を払いながらゆっくりと登ってゆく。山上の駐車場から神社までは、幾許もない登り道。県指定文化財である補修中の本殿に参拝した。宿坊には温泉もあり、日帰り入浴は五百円。残念ながら時間の余裕がなく、標高千メートルでのお風呂はお預けとなった。

帰途は雁坂トンネルを抜け、中央高速で新宿まで一直線。ほゞ予定通りに解散した。幹事さん、ご苦労さまでした。

(羽山 昭子)

サロンJ (03・11・11)

(会員委員会)

書を楽しむ

講師 端本 和子氏

会員で、日本書芸員無鑑査会員でもある、端本和子氏による「書を楽しむ」がサロンJで開かれました。文字・墨・筆などの歴史から、墨絵に色を付けて、青墨で漢詩や俳句を描けばお茶室に、葉書に描けば絵手紙になると、絵を描くことから筆を持つ楽しさを伺い、私たちも実作に挑戦しました。

お手本の絵の輪郭を鉛筆で淡く描き、墨、または顔彩で濃淡をつけて重ね塗りをする、四季を感じさせ、梅や水仙は清らかな芳春の雰囲気、漂い、いつそう可憐になりました。エビの目は活きいきと、とても美味しそうになりました。

外は冷たい雨の日でしたが、室内は皆さん、ひたむきに頑張っていて熱気で華やかに盛り上がりしました。

書に親しむ機会を得て、日本文化の奥深さや文字の美しさを知り、日本人の繊細な心に触れる思いでした。出席者も、それぞれ隠れた個性を発揮でき、自信作ができた喜びをかみしめて会は楽しく終了しました。

(堀口 裕子)

パソコン教室

(情報委員会)

情報委員会の企画のもと、JAUWの四谷の事務所でパソコン教室が始まりました。現在、生徒は四名で、講師は井口委員長と遠藤委員です。同じ機種のパソコンとプリンターを購入し、昨年、十月六日、午後から第一回の教室が始まりました。

まるで、個人授業のように懇切、丁寧にご指導いただいておりますので、パソコンの機能のすばらしさに、驚いたり感心したり、毎回、なかなか雰囲気、楽しみながら学んでいます。



五回目の十二月一日には、年賀状を印刷するところまでになりました。これから、技術の向上を目ざし、JAUWの活動の輪に参加できるようにがんばりたいと思います。

(太刀川 洋子)

新春のつどい 国内奨学金贈呈式

(04・1・10)



寒に入り、身を切られるような寒さの中、「新春のつどい」が新宿の京王プラザホテルで開催された。日本の安全保障政策が転換点を迎えたともいえるこの日、「あくまでも対話を持って」と静かに語られた今井会長の言葉の端々に、平和を希求する揺るぎない想いが感じられた。

今年度の国内奨学金受賞者は、一般奨学生六名、安井医学奨学生一名、社会福祉奨学生二名の計九名。研究内容は幅広く、女性の視点での行政学、近代文学、特に樋口一葉の初期作品の調査分析、日本史の中の女性信仰の実態調査。また、一度社会に出た後、女性が一人の人間として経済的に自立する必要性を痛感されている経済学。その他、欠席の方々の専攻も海洋環境学、錯体化学、脳神経医学、農学と実に多岐にわたった。

社会福祉奨学生の山本美由美さんは、手話通訳の住吉美穂さんと一緒に京都から車で七時間もかけて駆けつけて下さった。「私は私であって障害に誇りを持って生きている」山本さんは、聾社会の中の女性学という新分野の研究を開拓されている。

ひたむきで堅実で、力強い奨学生の皆さんのスピーチの後は、東京支部の岩田玲子さんのダイナミックなピアノ伴奏と、ご友人の松井直美さんの繊細な響きの独唱が醸し出す調和にしばし聴き入った。

これから各分野の中核での活躍が期待される、若い女性研究者の才能の発掘を、脈々と貫いてこられた諸先輩方の強い意思と努力に、改めて感銘を受けた一日だった。

(桑折 美子)



※この奨学金の一部として、東京支部から十万円を寄付しています。

サークル紹介

英語講座

第一・三金曜日

午前十時～十二時

大久保地域センター三階

講師・松本節也元法政大学教授
「さし絵入り英国史」を講読中。講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。

メンバーを若干名募集中です。

連絡先・伊藤美美子
(☎〇四六三一九五一四三六四)

楽しい俳句会

第三水曜日 午後一時半～三時半

JAUW事務所会議室

講師・柴崎富子会員

若干名、余裕があります。

連絡先・海老原典子
(☎〇三三三三五一五〇五六)

源氏物語を読む会 (I)

第三・四水曜日

午前十時半～十二時半

津田塾大学同窓会・会議室

講師・坂上栄美子会員

「若菜 上」の巻を読んでいます。

連絡先・平田宏子
(☎〇四一七一四三一五七三)

源氏物語を読む会 (II)

第二・三・四水曜日

午前十時～十二時

津田塾大学同窓会・会議室

講師・坂上栄美子会員

「初音」の巻を読んでいます。

連絡先・中山律子
(☎〇三三三三三六四六二八)

フラワーデザイン

第三火曜日 午後一時半～三時半

JAUW事務所会議室

講師・河井尚子会員

若干名、余裕があります。

連絡先・山崎邦子
(☎〇四五八八一八九〇二)

会員相互の親睦をはかるために、どのサークルも和気あいあいと、楽しい雰囲気の中で活動しています。まだ余裕がある所もありますので、ご入会希望の方は、係までご連絡ください。

今後、ご希望のサークルがありましたら、新設も検討しておりますので、東京支部・サークル係までお申し出てください。

2004年
東京支部総会のお知らせ

・四月一七日(土) 一時～二時
・津田ホール内会議室(千駄ヶ谷駅前)
・記念講演 二時半～四時
「女性記者走る」男性型メディア
の限界に挑んで」

講師 竹信三恵子氏

朝日新聞くらし編集部記者

(講師紹介)

一九七六年朝日新聞社入社。経済部記者、シンガポール特派員、学芸部次長(家庭面デスク)、総合研究センター主任研究員、企画報道部オピニオン編集部記者などを経て、二〇〇二年七月から同部くらし編集部雇用チーム記者。一九九七年一月から二〇〇二年七月まで、衛星テレビ「朝日ニュースター」解説委員を兼務。内閣府男女共同参画審議会基本問題専門調査会委員。愛知淑徳大学非常勤講師。

(主著)「日本株式会社」の女たち(94年、朝日新聞社)、「女の人生選び」(99年、はまの出版)、他多数。「週間金曜日」の連載コラムの寄稿者。
※記念講演には会員外の方も多数お誘いください。参加費無料。総会のお知らせは別途郵送いたします。

2003年度東京支部新入会員 (敬称略)

(2004年1月現在)

氏名	出身校	〒	住所
出田恭子	日女	166-0012	
藤加奈子	津女	339-0005	
大西礼子	東女	162-0054	
河合珠世子	東女	158-0083	
川渕恵子	南女	248-0012	
桑折美子	早女	191-0033	
肥田修子	早女	181-0013	
佐藤文子	東女	158-0093	
島田圭子	東女	177-0053	
下村辰枝	武蔵	270-0101	
陣内孝子	武蔵	213-0001	
高田孝子	武蔵	106-0047	
田邊儀子	武蔵	174-0063	
東濱恒子	東女	239-0801	
林千代	東女	112-0001	
早瀬千子	東女	157-0061	
増子佳子	東女	175-0094	
安野ふじ子	東女	195-0053	
野政子	東女	152-0011	
		274-0074	

謹 弔 (敬称略)

佐藤 共子	津女	2003年1月15日	ご逝去
石上 敏子	津女	2003年7月8日	ご逝去
伊藤 俊枝	津女	2003年9月24日	ご逝去

★ご寄付いただきました。お礼を申しあげます。

井口美登利氏

一万円

熊切富子氏

一万円

若林蓉子氏

五千円

中沢雅子氏

三千円

源氏物語を読む会(Ⅰ)

五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ)

五万円

フラワーデザイン

一万五千元

楽しい俳句会

一万円

英語講座

五千元

★寄付しました。

国内奨学金

十万円

国連難民高等弁務官事務所

五万円

★会費納入のお願い

会費未納の方は、用紙の裏の「払込みのご案内」を参照の上、早めにお振り込みください。

★住所変更などのご連絡は事務所までお願いいたします。

★使用済みの切手、プリペイドカードなど事務所までお送りください。

(編集後記)

全国セミナー・東京支部調査研究

チームの参加者は、遠藤、奥山、片

柳、加藤、河井、小池、桑折、後藤、

佐々木、田辺、福土、福田、三浦(由、

森川、以上の十四名でした。調査研

究で磨いたICTの技術で世界に羽

ばたいて行きましょう。

(F)

ともしび 三五号 発行日 二〇〇四年三月一日

発行 社団法人大学婦人協会東京支部 編集 ともしび係

〒100-0001 新宿区左門町十一番六(一)〇二

Fax Tel 〇三・三三・五八二・八八二・二八八二 印刷 タナカ印刷